

第2回木曾地域の高校の将来像を考える協議会 資料

木曾青峰高等学校長 中村 宏

1 各学科・課程の特徴（進路状況の数字は学科内の%。過去3年分）

- (1) 普通科 進学・就職等の多様な進路に対応。
四大 53.3 (国 11.1 私 42.2) 短大 7.4 専門学校 28.1 就職 9.6 その他 1.5
- (2) 理数科 大学進学をめざす。土曜授業（年18日）。
四大 81.4 (国 33.3 私 48.0) 短大 1.0 専門学校 5.9 就職 0.0 その他 11.8
- (3) 森林環境科 森林資源活用・野菜栽培等の技術を学ぶ。資格取得。
四大 9.5 (国 0.9 私 8.6) 短大 5.2 専門学校 37.1 就職 48.3 その他 0.0
- (4) インテリア科 木材加工技術・デザインを学ぶ。
四大 6.7 (国 1.0 私 5.7) 短大 11.4 専門学校 51.4 就職 27.6 その他 2.9
- (5) 定時制普通科 基礎学力・生きる力を身につける。
四大 0.0 (国 0.0 私 0.0) 短大 5.9 専門学校 29.4 就職 35.3 その他 29.4

2 各学科・課程の課題

- (1) 普通科 志望者の急減。(表1,2) 学科としての特徴が少ない。他の3学科にある「課題研究」がなく、探究的な学びの側面弱い。
- (2) 理数科 志望者減。本来であれば普通科へ進む生徒の受け皿になっている面も。学科内での学力差が拡大。40名を集めることが困難。
- (3) 森林環境科 学びを活かした進路が減少。40名を集めることが困難。「長野県総合5か年計画」(H30)では、「林業・木工関係人材育成の拠点形成…『林業・木工を学ぶなら信州木曾へ』」が示される。(第5編 p147)
- (4) インテリア科 学びを活かした進路が減少。40名を集めることが困難。同上。
- (5) 定時制普通科 志願者減。

3 課題克服のために

- (1) 「未来の学校[高度な産業教育を推進する高校]」として研究校に指定。林業大学校・上松技術専門校・地元職能団体等との連携強化と地元産業人の育成を柱に。
- (2) 「未来の学校」にて研究開発する基礎プログラムを学校全体に波及できないか検討。学校イメージの全体的刷新(本年度中の[3つの方針]策定にむけて)。
- (3) 寄宿寮の改築などを視野に入れた郡外女子生徒募集の研究。

表1 各学科・課程入学者数の推移（普通科以外の募集定員は各40。太字は募集定員を満したのもの。）

	H20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
普通	113	108	127	93	76	78	64	41	37	39	38	34
普募	120		160	80				40				
理数	40	36	31	29	31	37	33	41	30	37	40	27
森林	37	31	41	39	40	39	41	40	41	35	32	34
イ	38	37	40	40	28	34	40	30	39	35	40	30
定時	6	11	13	10	6	7	9	8	2	4	2	2

表2 第1回志願予定数と入学者数

	H29 選抜		H30 選抜		H31 選抜	
	第1回志願	入学者数	第1回志願	入学者数	第1回志望	入学者数
普通科	67	39	61	38	50	34
理数科	19	37	24	40	24	27
森林環境科	27	35	31	32	29	34
インテリア科	32	35	34	40	20	30

第2回木曾地域の高校の将来像を考える協議会 資料

蘇南高等学校長 小幡 正樹

1. 学級数・入学者数の変遷（抜粋）

年度	S28	S37	S38	S60	H9	H21	H30	R01
学級数	普3	普2 商1	普3 商1 電1	普2 商1 電1	普1 商1 電1	総合2	総合2	総合2
入学者数	103	144	226	175	117	61	69	51

※普・普通科 商・商業科 電・電気科 総合・総合学科の略

2. 地域の期待に応える本校の学科構成

- ・昭和25年 南部6中学校から木曾福島町の3高校へ151名、岐阜県の高校へ153名進学
- ・昭和28年 普通科3学級規模の組合立高校として発足
- ・昭和37年 インナーコースであった商業課程を商業科として新設（就職への対応）
- ・昭和38年 電気科新設（高度経済成長への対応、他に中野実、岩村田、箕輪、池田工に設置）
- ・昭和60年 少子化に対応するため、普通科1学級減（その後、平成9年にも普通科1学級減）
- ・平成21年 普・商・電3科の特長を生かしつつ学級減に対応するため、総合学科に移行
- ・平成30年 総合学科設置10周年記念式典挙行

3. 総合学科転換後の入学生数

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01
郡内	43	65	39	39	44	37	36	50	47	39	31
郡外	0	0	2	2	0	1	7	4	3	6	4
県外	17	9	5	10	14	15	11	11	24	24	16
合計	60	74	46	51	58	53	54	65	74	69	51
※1	194	198	173	156	145	154	161	166	183	197	183
※2	47.9%	41.2%	40.5%	40.4%	51.4%	38.2%	30.4%	68.6%	42.9%	60.0%	43.5%

※1 年度当初全校生徒数

※2 南木曾中学校卒業者の本校進学率

4. 総合学科の理念（文科省ホームページより）

- ・幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し学ぶことが可能であり、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視すること。
- ・将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視すること。

5. 本校の特色（課題含む）

- ・普商電3科の特色を文理系列・経営ビジネス系列・ものづくり系列として残し、地域の期待に応えられる人材育成を行っている。総合学科設置後11年目となり、地域にもその理念が浸透した。
- ・2学級の小規模校ということもあり、幅広い選択科目を置くことはできないので、キャリア教育や主体的対話的で深い学びの推進に力点を置いている。
- ・地域高校の特徴を生かした地域資源（ヒト・モノ）との連携を図り、蘇南版信州学を深化させている（イタダリの食材化、ろくろ細工、外国人観光客への案内作成等）。
- ・少人数での学習と進学にも就職にも対応できる個別指導体制によって成果をあげている。昨年度、12年ぶりに国公立4年制大学複数名合格（3名）を果たし、就職においてもJR東海、アイシンAW、町役場等への就職が実現した。
- ・少人数のため、生徒会活動・クラブ活動等、スケールメリットを生かした活動が困難である。